

UVインキ

UV SA シリーズ

従来プラスチックフィルムの種類により密着性が異なるため、インキを使い分けなければならないことがありましたが、“UV SA”シリーズはドライオフセットおよび活版印刷専用で、幅広いフィルムに対し密着性が良好になるように改良したタイプとなっております。

■ 特徴

- ▶ 処理OPP・処理PET・塩ビ・処理PP・A-PET・PS等のプラスチックフィルムに対して接着性が非常に良好です。
- ▶ 耐スクラッチ性・耐裏付き性・耐摩擦性等が非常に良好で、高速印刷適性にも優れています。
- ▶ 機上安定性が良好、且つ、高濃度のため、ベタのつぶれも良く、文字もシャープに印刷することができます。
- ▶ 要望により各種特練インキのご依頼もお受けいたします。

■ 基準色および耐性

品名	耐光性		耐熱性	耐石けん性	耐溶剤性
	濃色	淡色			
UV SA 黄	4	3	4	5	5
UV SA 紅	4~5*	3*	4	2	4
UV SA 藍	8	7	5	5	5
UV SA 墨	7~8	7	5	5	5
UV SA メジウム	8	—	5	5	5
UV SA 白	8	7	5	5	5
UV SA 金赤	3*	2*	4	1	3
UV SA 紫	7~8	7	5	5	5
UV SA グリーン	8	7~8	5	5	5

評価：耐光性 8(優)⇔1(劣)、その他：5(優)⇔1(劣)

* 水に濡れた状態では、耐光性が極端に悪くなります。

〈試験方法〉

耐光性…印刷物をフェードメーターにて照射試験し、暴露時間と変褪色の程度により強度を8段階に分級。

希釈しない濃色とメジウムで5倍に希釈した淡色を試験する。

耐熱性…印刷物を150℃の熱風循環式乾燥機中で10分間加熱し、変褪色の程度により強度を5段階に分級。

耐石けん性…印刷物を10%の石けんゲルに20~25℃で1時間付着し、変褪色の程度および石けんゲルへのブリードの程度により強度を5段階に分級。

耐溶剤性…印刷物をトルエンとアセトンの1:1混合液に20~25℃で24時間浸し、変褪色および混合液へのブリードの程度により強度を5段階に分級。

- ▶ 記載のデータは、当社の試験方法による実測値であり、規格値ではありません。ご使用に際しては、貴社使用条件に適合するかを必ずご確認ください。なお、本文中の用途はいかなる特許に抵触しないことを保証するものではありません。
- ▶ 製品改良のため、予告なく内容を変更することがあります。
- ▶ 製品使用の際は、必ず事前に安全データシート(SDS)をご一読願います。

■ 使用上の注意

- ▶ フィルムの種類によって、接着しないものもありますので、必ずご確認の上ご使用ください。
- ▶ 糊付け、箔押し等の加工も条件により可能です。ただし事前に糊、箔を選択し、予備試験によって適性を確認してください。
- ▶ 他種インキが混入いたしますと、十分な性能を得られませんのでご注意願います。
- ▶ 希釈剤を用いる場合、UV DGレジューサー(5%以内)をご使用ください。
- ▶ 湿し水を使用する印刷には、使用できません。
- ▶ 機上でのインキのしまりと膨潤を防止するため、樹脂型ロール(グランポールUVなど)を使用してください。
- ▶ 非吸収原反へ印刷した印刷物が屋外もしくは水(結露を含む)のかかる環境に置かれた場合、接着力が低下して爪などによって簡単に剥がれることがありますので、ご確認願います。
- ▶ インキ盛り過ぎやランプの劣化により、硬化・密着不良が発生する可能性があります。
- ▶ 火気に注意し、作業場は十分に換気を行い、紫外線や直射日光を避けて取り扱って下さい。吸い込んだり、目、皮膚及び衣類に触れない様に保護具を着用下さい。
- ▶ 目に入った場合、直ちに多量の水で15分間以上洗い流し、眼科医の手当を受けて下さい。
- ▶ 皮膚に付着した際は、汚染衣服等の汚れを落とし、付着部または接触部を石鹼水で洗浄し、多量の水で洗い流して下さい。もし、皮膚に炎症やかゆみを生じた場合は、直ちに医師の手当を受けてください。
- ▶ 本製品を御使用の際には、事前に安全データシート(SDS)を良くお読みください。



2022/1/14No.W-3

- ▶ 記載のデータは、当社の試験方法による実測値であり、規格値ではありません。ご使用に際しては、貴社使用条件に適合するかを必ずご確認願います。なお、本文中の用途はいかなる特許に抵触しないことを保証するものではありません。
- ▶ 製品改良のため、予告なく内容を変更することがあります。
- ▶ 製品使用の際は、必ず事前に安全データシート(SDS)をご一読願います。